http://ws.higo.ed.jp/jimuken/

第42回

熊事研大会特集号

平成30年2月12日発行

熊本県学校事務研究協議会
発 行 人　会　　長　上田 千浩
編集代表　研究部長　平野 哲也

～目　次～

○　開会行事
○　研究部提案
○　講演
○　分科会記録

大会テーマ：**変革の時代に対応する学校事務の創造**
―子どもの豊かな育ちを支援する学校事務―
期日：平成30年２月２日(金)
会場：くまもと森都心プラザ、ザ・ニューホテル熊本

平成30年２月２日(金)くまもと森都心プラザにて、第42回熊本県学校事務研究大会が開催されました。

当日は熊本県学校事務研究協議会（以下　熊事研）会員の皆様を始め、他県や県立学校から400名を超える参加をいただき、大会テーマに沿って終日熱い討議がなされました。参加の皆様方のご協力により、盛会のうちに終了することができました。ありがとうございました。

開会行事

・開会宣言　熊事研副会長　　氏原美和子
・開会挨拶　熊事研会長　　上 田 千 浩
・来賓祝辞　熊本市教育長　　遠 藤 洋 路　様
・来賓紹介

来　　賓	熊本県教育庁 学校人事課 審議員	田 村 紀 広	様
	熊本市教育長	遠 藤 洋 路	様
	熊本県小中学校長会会長	中 曽 哲 也	様
	熊本県ＰＴＡ連合会　理事	今 田 史 昭	様
	熊本県立教育センター副所長	本 山 雅 仁	様
	熊本県公立学校事務職員協会会長	嘉 悦 良 吉	様
	日本教育公務員弘済会熊本支部長	坂 井 賢 二	様

・閉会宣言　熊事研副会長　　宮 崎 文 子

〈教育長　遠藤様〉

〈上田会長〉

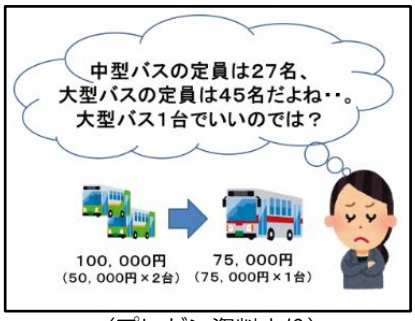
研究部提案「熊本版グランドデザイン」

研究部研究班

〈左から研究部員の三浦、伊賀上、平野研究部長〉

研究部提案では、始めに大会テーマである「変革の時代に対応する学校事務の創造ー子どもの豊かな育ちを支援する学校事務ー」を目指し研究部活動を行っていることを説明し、平成 29 年４月の法改正に伴い、学校事務職員の職務が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改正になったことをうけ、学校事務は変わらなければいけない、変革の時代を迎えていることを述べました。その後、この変革の時代に求められる学校事務職員の姿、役割を可視化するものとして「熊本版グランドデザイン」を示しました。

最初に、熊本版グランドデザインのキーワードとして「財務・情報・企画調整」を挙げ、「企画調整」とは、「学校事務職員が計画段階から教育活動に間接的にかかわり、教員が直接的に教育活動を展開するなかで、その教育活動が学校教育目標達成のために、質の高い教育効果を上げる活動となるように、学校事務職員が調整すること」と説明しました。学校組織における唯一の総務・財務などの専門職である学校事務職員の業務を「事務機能」として考えることにより、他の教職員と協働する「チームとしての学校」の実現への第一歩ではないかとの考えを述べました。



〈プレゼン資料より〉

次に、見学旅行のバスの手配について具体例を挙げ、例えば「保護者負担を軽減できるのではないか」「学習効果が上がるのではないか」と考え、行動することが、学校における事務機能の大きな役割だということ、また「事務機能」は特別なことではなく、私たちがすでにやっていることだということを述べました。

そして、このようにすでにやれていることをどのように可視化したのかということを、グランドデザインを基に説明し、学校事務職員の業務を事務機能として考えました。他の教職員と協働するチームとしての学校を実現することが、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」という目標への第一歩であり、その第一歩となる戦略を「School アレンジ戦略」とすることとしました。School アレンジ戦略とは、「学校事務職員としての専門性と、学校に存在する３つのキーワードをもとに学校に事務機能という手を加え、より質の高い学校を目指すための戦略」と定義しました。

熊本版グランドデザインのビジョンは「学校事務職員の意識をそろえる」ことで、方向性は「意識を変える」、「現状よりも一歩前へ」ということを述べました。「意識改革チェックシート」を用い、自分の意識を確認することで、それが「変革を一過性に終わらせないプロセス」となります。「変革が常態化」することになり、熊事研の大会テーマである、「変革の時代に対応する学校事務の創造」につながると考えられると説明しました。

最後に、「学校事務職員一人ひとりが踏み出さなければいけないという意識になり、組織としてみんなが一歩前へ踏み出そうという意識にそろう「変革」でチームとしての学校の一員として、明日からみんなで一歩前へ踏み出しましょう。」と結びました。

〈熊本版グランドデザイン〉

講演「チーム学校の理想と現実　学校事務職員は何者か！？
～学校事務職員の役割・ミッションを考える～」

講師　教育研究家・学校マネジメントコンサルタント　　妹尾　昌俊　　氏

〈妹尾氏〉

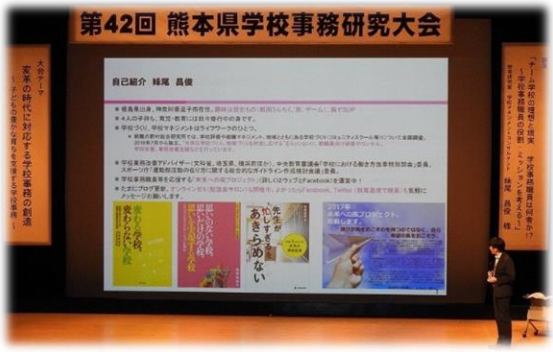
御自身の親の立場としての体験を交えながら、時折課題を会場へ投げかけ参加者自身が考え、近隣席の方と共有するという、プチワークショップを交えた参加型の講演でした。

はじめに、「つかさどるになって、何をやるのか？」職務が明確にされていないなか、日々の業務を行っていく学校事務職員は暇ではないでしょう。しかし、「今のままでいいのか？」「今のままで本当に満足ですか？」また、「どんな仕事がしたいのですか？」との問いかけがありました。キャリアや職種にかかわらず、学校経営への参画、業務改革、財務マネジメントといった内容が考えられます。それっていったいどんな仕事なのか？ 何のためにやるのか？ 何に繋がるのか？ を考える時間にしたいと講演を始められました。

【講演より抜粋】

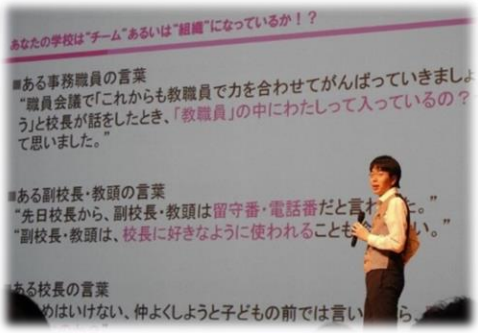
〇就学援助家庭の増加について、あなたはそれをどう感じ、どんな意識で仕事をしますか。例えば A さん「忙しくなるな。ややこしい、申請できていない家庭への対応、いやだ」という反応です。B さん「貧困家庭が増えている、修学旅行など前年踏襲でいいのか。」と背景にあるものは何か考えています。どちらのほうが自分の人生に良いと思いますか。解決しようとする時も、たまたま目についた気になるものだけに取り組んでいないですか。もっと自分がエネルギーを注ぐべきところはどこなのか。表面的なものばかりに取り組んでいないか。本来の問題はどこにあるのか。課題設定とその分析が大切であり、情報を正しく伝える。背景を含め問題を正しくとらえること。企画調整するために主体的に動くことが必要だ。自分の好きなことが活かされること、わくわくできることにチャレンジしてほしい。

〇一人一人の自己研鑽ではいけない。団体戦でなければうまくまわらない。そのなかで、学校事務職員の立ち位置・役割を考えほしい。今は、チームの力が不可欠である。チーム学校に何が必要なのか？それは、目標や想いがバラバラではなく、チームとは、お互い認め合う・ケアしあうことである。相互理解を図り相互共有つまりコミュニケーションが大切だ。



〇チームの重要な要素として①保つ能力（確実に業務を遂行する力）②より良くする能力（改善力）③新しいものを生み出す能力（イノベーション力（りょく））である。

最後に、研修の壁として、記憶の壁・実践の壁・継続の壁をあげられ、さらに坂本龍馬の「何の志無きところに　ぐずぐずして日を送るは　実に大馬鹿者なり」という名言を紹介し、何もしなくて過ごすのではなく、つかさどる意識をもち研修の壁を乗り越え、一歩前へ踏み出していただきたいと結ばれました。



分科会報告

「となりの同期はどうしてる？　実践！タイムマネジメント」
講師　(株)ベストビジネス代表取締役　中小企業診断士　　岡部　穂積　氏

〈岡部氏〉

経験年数１～３年目の方が集まる第１分科会は岡部先生の「民間企業のエキスの部分を取り入れてもらいたい！」という願いと「タイムマネジメント」の説明のあと緊張感のあるなか、会は始まりました。

前半はタイムマネジメントのレベルアップのために、スケジュール管理・期日管理・先行管理の重要性とその能力を高める方法、限られた時間の中で生産性を高める時間の使い方を講師自身の経験を踏まえ説明がありました。

また、タイムマネジメントに役立つツールとして、年間・月間計画表、ポストイット付箋（To　Do　リスト）やマインドマップ法等の活用方法についても説明があり、会の後半には、そのツールを利用してワークシートに各班が設定したテーマへの対策・解決方法、年間・月間計画表にはスケジュール作成のため付箋に書き出す演習を行いました。演習にすぐに取りかかる班もあれば、自己紹介から入る班もあり、進め方は様々でしたが、最初の緊張感はなくなり、和やかなムードで班ごとに発表を行いました。各班の発表に対して講師から、どの班も共通して言えることは、各テーマへの対策・解決法、スケジュールの内容を具体的に書き出すことで、すぐにでも行動できるイメージが湧き、タイムマネジメントにつながる。と助言があり、会全体の質疑応答のあと会は終了しました。

第２分科会　調整職員（コーディネーター）
「ファシリテーターの基礎知識」
ファシリテーター　宇城市中央公民館　館長　　三角　幸三　氏

第２分科会は、経験年数４年目～１０年目の方を対象に開催されました。ファシリテーターの三角先生のアイスブレークにより、会場の緊張は解け、終始とても和やかな雰囲気で研修は進みました。

研修は、①「宝ものを探せゲーム」、②「ストロータワーゲーム」、③「クロスロードゲーム」、④「貿易ゲーム」の４つのゲームを用いて行われました。

ゲームをとおして、「調整職員」に必要となる
- 全員が発言できるような言葉かけや雰囲気を作ること
- 同じ目標に向かって全班員で取り組むこと
- ひとつの議題について、意見を伝えあうこと
- 役割を決め、役割に応じた仕事をすること
- 交渉力で win×win の関係を作ること

などのスキルについて、その重要性を学びました。

最後に、情報をキャッチして、予算と人をつなぐことでより充実した教育を行うことができ、そのことにより子どもの将来も変わる可能性があるというまとめをいただき終了しました。

第３分科会　企画職員（デザイナー）

「学校と地域との連携　～どうかかわる？地域とともにある学校づくり～」
講演　「地域と学校が連携・協働した教育活動の推進」
講師　熊本県教育庁教育総務局社会教育課　主幹　江上　知男　氏

〈江上氏〉

まず江上先生の自己紹介がありました。学校現場から県庁に出向し７年目なり、現場にいたころは、学校事務職員とのつながりがあり、相手意識をもって仕事をしている職業だと思われたそうです。また、自分の講演は次に実践発表される上野先生の前座と思ってください、と会場をリラックスさせ始められました。

はじめに、地域の方との協働「地域学校協働活動」や「コミュニティ・スクール」「地域連携担当教職員」などについて、制度や仕組みなどを説明され、入っていてもらうだけではうまくいかない、一緒にやっていく必要がある。WinWin の関係になるために学校から地域へ子どもたちをだしていく手立てを今後求めていると話されました。

次にチーム学校について、文科省の資料を提示し成り立った背景など詳しく説明されたのち、教員が授業に集中できる環境をつくること、役割分担すること、専門と職を用いることを話されました。学校事務職員は学校組織マネジメントを効率的に行っていく専門職員であり、校長のマネジメントを支え、さらに法令が「事務をつかさどる」に改正されたのを機に、学校経営にかかわっていくことになると話され、これからの学校事務職員に求められる資質能力が変わってきているという資料も示されました。

最後に、地域に根差した事務職員として、地域の情報（実情）をきちんと把握して地域連携に積極的にかかわってほしいと結ばれました。

発表「コミュニティ・スクール事務局に携わって思うこと
～今後の学校事務の機能の広がりと事務職員への期待～」
発表者　氷川町コミュニティ・スクール連携協議会事務局
氷川町及び八代市立中学校組合立氷川中学校　事務職員　上野　けい子　氏
助言者　八代市立八代支援学校　事務主任　平木　雅万　氏

〈上野氏〉

上野先生は、H24～H26 コミュニティ・スクール加配として、H27～現在まで ICT 教育・コミュニティ・スクール加配として氷川中学校に勤務されています。事務局職員として携わってきた経験を、御自身の想いを込めて発表されました。

氷川中学校は運営協議会の委員 10 名が地域の方。町では住民の意見を取り入れた学校運営を目指し、「地域とともにある学校、町が人を育てる　氷川町」という教育長の想いのもと地域連携に取り組んでいます。上野先生は、町のコミュニティ・スクール事業をもう一歩前進させマネジメント力（りょく）を強化するため、加配事務職員として赴任し、何もわからないなかで事業計画等を作成することから、事務局職員としての仕事をスタートされました。

事務局として、会議の２ケ月前より教育委員会で会議の打ち合わせをし、会議の内容を決定。それに加え、広報活動（地域住民、教職員等へ）や他地区からの視察研修のための資料づくり、民生委員会での講演など幅広く仕事をされています。また、年５回の運営会議のうち２回は、教職員を含めた合同会議となっています。会議の企画をしているときや生徒の変容が見えたとき、そしてなにより地域の人との出会いや、きずなづくりができたときにやりがいを感じていると話されました。

最後に、「チーム学校・チーム事務職員『共同学校事務室』の一員として、学校を支える役割、学校と地域をつないでいく役割ができるのではないかと考えます。これからは皆さんが、子どもの未来のために、町の未来のために学校や町（地域）でなくてはならない存在になっていってほしい。」と結ばれました。

また質疑応答の時間には、前半に御講演された江上先生も交え、「コーディネートする仕事が重要である。」「地域・行政を巻き込んで教育を行っていかなければいけない。」などコミュニティ・スクールのこれからや、学校の現状など活発な意見交換がありました。

第４分科会　統括職員（アドミニストレーター）

「学校のチーム力（りょく）を高めるマネジメントの実践」

講師　教育研究家・学校マネジメントコンサルタント　　妹尾　昌俊　氏

午前中の講演に引き続き、妹尾先生にお話をしていただきました。

話を聞き、それぞれで考え、隣同士で一緒に考え、２～３人発表していくという形式を繰り返していきながら進められました。

現状を変えるための学校改善・業務改善に向けてチャレンジすることの必要性、それぞれで考えた仕事に対する志・アクション（行動）を明確にし、共有するためのお話でした。学校の中で、何が問題かと考えるかによって解決策が違ってきます。たまたま目についた部分だけで取り組むことが解決策なのかを考えること、また背景等も見ていくことが必要であると話されました。また、「教育効果がないのではないか」「学校がなんとなく続けていることで子どものためになることでも見直せることがあるのではないか」など、非効率的なことに気づくことができる学校事務職員の立場・職から発信していき、改善のためにチャレンジしていかなければならないとも話されました。

最後に自分の学校でのチーム力（りょく）の向上・学校改善・業務改善に向けてチャレンジしたいと思った志を書いて、周りの方々と共有をしました。「書いてみる（可視化する）、言ってみる（表に出す）、やってみる、やってみたうえで見直す」という妹尾先生の言葉に、思うだけでなく行動することが大事であるということを参加者が感じて終了しました。

参加者感想

〈アンケートより一部抜粋〉

○午前中にとても貴重な講話、午後に動きのある研修でとてもよかったです。コミュニケーションの大切さ、自分で気付いて学校経営に参画することの大切さを再確認することができました。（水葦　20 代）

○思っている以上に楽しく、何が事務職員にとって必要かを通して感じた。（熊本市　50 代～）

○研究部提案大変分かりやすかったです。グランドデザインに「意識変革チェックシート」がついていることがまたいいですね!!（自分が記入した課題をいつでも意識して振り返ることができるので･･･）県外からの参加でしたが、とても充実した研修でした。ありがとうございました。（香川県　20 代）

○「つかさどる」となり、自分がどういうふうにこれから仕事をしていけばよいのかと構えていたが、実は今やっていることもあるのだと気付いた。これからの仕事をしていく上での見通しもなんとなくわかった気がする。自分のために地域のために頑張っていきたいと思った。（天草 30 代）

○意識を変えるきっかけになった研修でした。来週からすぐに実践しようと思えることがたくさんあり、キャリア別分科会でお互いの学校で行っていることを出し合ったので、自分の足りなかった部分、自分が実践して役に立っている点など情報を共有できたので充実したものになりました。参加できて良かったです。ToDo リストを作る。見える化して整理する。早速始めようと思います。（宇城市　30 代）

○ただ聴いているだけでなく、考えさせられる研究会でした。これからの業務に生かしていきたいと思います。（熊本市　50 代）

○意識を変えていただく内容ばかりで、とてもありがたかったです。わくわくを見つけて仕事をしたいと思います。（上益城　40 代）

〈最後に〉

今大会も、たくさんの方々に当日の運営をお手伝いいただきました。おかげをもちまして盛会のうちに大会を終了することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

参加者の皆様のこれからの学校事務職員生活にますます花が咲きますようお祈りいたします。また来年の研究大会でお目にかかりましょう。

http://ws.higo.ed.jp/jimuken/
過去の熊事研会報は HP にあります。
今すぐクリック！＼

〈当日朝８：00、森都心プラザ5F ホワイエにて準備打ち合わせの様子〉